

六区

御柱古道を歩く

分館長 小河原 博

斧立社を左に見て数十メートル、県道から左に入ると気温が一変する。木々の葉が直射日光を遮り、腐葉土が足に心地良い。

めったに現れない蛇との出会いも「愛嬌。恒例の「区民歩け歩け運動」、子どもたちの夏休み最初の日曜日、今年は御柱古道を歩き、大平棚木場を目指す。



思い思いに一時間程森林浴を楽しみながら古道を抜けると、御柱祭山出しの基点である棚木場に出る。

そこには、婦人会手作りの豚汁、分館役員の用意した焼きそばや飲み物が皆の到着を待つ。紫外線が作るビタミンDも味噌の発酵過程でできるアミノ酸ギャバも、長野県長寿日本一の要因のひとつだと聞く。

だから外で豚汁…。この催しが区民の健康維持の一助になることを願って、町木遣り保存会の四人衆にこの場を締め上げていただく。

七区

家庭教育講座「緊急蘇生法とAEDの取扱い」

分館長 山田 榮一

六月十五日、下諏訪消防署警防係の五味・矢崎両氏を講師に迎え、講座を開催しました。

初めに下諏訪管内の救急出動の様子を伺い、その後心肺蘇生法及びAEDの取扱方法について実技指導を受けました。傷病者の発見から救急車の到着までの間、近くにいる人が一秒でも早く応急処置を施すことが人命を救う第一歩となります。



その際「自分一人ではなく複数人の協力を求め、一一九番通報・AEDの手配・胸骨圧迫・AEDの使用」に至るまでを一連の流れとして、スムーズに実践できる実技指導をして頂きました。

受講生の皆さんも普段とは違った真剣な表情で聴き、実技にも全員が率先して参加していました。普段私たちの日常生活で実際に体験することは少ないかもしれませんが、講習を通じて知識と経験を積むことの必要性を感じました。

八区

バスハイイクで潮干狩り

分館長 御子柴 健一

わが区は、区民の交流と親睦を図ることを目的に、昨年より文化交流会を開催しています。内容はその年によって検討されますが、本年度も昨年度に引き続き、バスハイイクを行いました。

今年も区民からの要望もあり、蒲郡での潮干狩りを計画いたしました。六月九日は天候にも恵まれ、四十人ほどの区民が参加いたしました。家族連れの参加もあり、楽しい一日を過ごすことができましたと思います。

蒲郡オレンジパークでフルーツを堪能した後、竹島海岸で二時間ほど潮干狩りを楽しみました。海のない長野県民にとって何度行っても海は楽しく、ワクワクするものです。たくさん取れた人、取れなかった人様々でしたが、区民同士で協力する姿も見受けられました。

午後はラグーナ蒲郡でショッピングをして、帰途につきました。バスの中では、恒例のじゃんけん大会で大いに盛り上がりました。来年度も良い企画で開催できればと思います。



九区

餅つき&しめ飾り講習会

分館長 濱 豊

十二月二十二日(日)に子ども主体のお餅つき及びしめ縄講習会を開催しました。

しめ飾りは、皆さん手慣れた手つきでわらをすいていき、初めての方には丁寧に説明していただいたりと、とても和気あいあいの雰囲気でした。その間、分館役員は子どもたちと餅つきをします。前日から、婦人部の方々に準備していただき、各分館役員の方々の協力のもと、全員でつくことができ、お汁粉でおいしくいただきました。



日頃、餅つきをしたことがない子どもたちが多く、重い杵を一生懸命ふり下ろす姿に、お正月間近の光景を見させていただき、新年を迎えるにあたり気の引き締まる思いがしました。

婦人部の方々に指導を受けながら、分館役員が鏡餅も作りました。ただ嬉しい手つきでしたが、無事完成しました。

このような行事により、一から作るこの大切さ、昔から行われてきた日本の良き風習を継承していく大切さを知り、一年を締めくくることができました。

十区

虫除けスプレーと虫刺されジェル作り

分館長 宮坂 善博

七月十三日(土)に、富部公民館にて第一回家庭教育講座「アロマで虫除けスプレー&虫刺されジェル作り」を実施しました。分館文化部の太田麻紀さんが講師を務め、天然アロマオイルの効果等の説明・実演の後、参加者がそれぞれに飾り付けた容器に、自分の好みでオイルを配合し、世界に一つだけのオリジナルスプレーとジェルが出来上がりしました。九名の子どものみを含め四十名余りの参加者があり、和気あいあいに、賑やかで楽しい講座になりました。

天然アロマオイルを使用しているため、香りだけでも癒され、子どもにも安心して使用することが利点です。しかし講座が終わり家に帰りいざ使用しようと思っても「もったいない」が先に出て、なかなか使えなかった私でした。実際使ってみると、効果は抜群！とてもいい香りの手作りアロマ虫除けスプレー&虫刺されジェルでした。



ほのぼのまちかどで

日差しが日に日に濃くなって来た。道端に積み重ねられていた雪の山が見るうちに溶けていくのを見て、太陽のエネルギーの強さを改めて思い知らされる。

我が家の猫も冬中寝てばかりなのに、最近ではいそいそと外に出掛け、愛おしそうにそここの春の匂いを嗅ぎ取っている。寒さに耐えられるように、冬の間、ひたすら食べてまるまる太っていたのに、最近では食べる回数や量がめっきり減ってきた。

通りすがり、近所の家の庭にフクジュソウが、ひっそりと黄金の花を咲かせていた。春がそこまでやって来ているのだ。日差しの色が違う。濃く、一段と明るくなった光の中で、風景が華やかである。

浮き浮きそわそわして歩き回りたくなるのは、我が家の猫ばかりではない。

子どもたちの声が、戸外に戻って来た。あすなる公園で遊ぶ子どもたちのにぎやかな声のさわめきが、この文化センターまで響いてくる。

冬の間に閉ざしていた心にも光が入って来て、寒風の中のわずかな春の匂いを、少しでも嗅ぎとろうと心躍らせるこの頃である。



(上野)